（様式５）

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―1―		
重点項目	学習活動	
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上	
現　　状	・生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図るとともに、生徒に意欲をもって授業に取り組ませ、確かな学力を身に付けさせることが必要である。	
達成目標	①指導力の向上を意識した授業改善	②課題解決力を身に付けさせる
	他の教員の授業を、各学期３回以上参観する。 生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。授業内容の理解度８０％以上	目標達成度評価表により、年３回以上評価基準に照らし合わせ自分を振り返る。 自己評価シートで項目ごとにチェック。課題解決力６項目で、Ｓ・A評価が全体の５０％以上
方　　策	・各学期に互見授業週間（年３回）を定め、各週間に他の授業を各３回以上参観する。 ・参観者は、互見授業シートを記入し、授業者及び自らの授業改善に資する。 ・各科目学習アンケートを取り、生徒の授業への取り組み具合を確認する。	・期末考査(年３回)後に、「課題解決力」６項目(コミュニケーション能力、自主性、協調性、粘り強く挑戦する心、創造性、確かな学力)について、現在のレベルをチェックし、評価の具体的根拠を記入し、提出。
達 成 度	互見授業評価シート回収率 １学期　８５％　２学期　８８％ 教科別学習アンケート 1年生　各科目観点別評価3項目3段階で評価 2，3年生　各科目課題解決力6項目5段階で評価	富商ブランド自己評価シート課題解決力 1学期　→　2学期 コミ能力　６５％　→　７１％　＋６ 自主性　６３％　→　６８％　＋５ 協調性　７４％　→　８１％　＋７ 挑戦心　６４％　→　７５％　＋１１ 創造性　５４％　→　６２％　＋８ 確学力　４８％　→　５６％　＋８
具体的な取組状況	・互見授業では、ＩＣＴを利用した授業への取り組みが多くみられ、新しい授業のスタイルへの探求心を図られている。 ・学習アンケートは、3 年生はこれまでと同じ６項目５段階全教科で実施。 ・1,2 年生は、新学習要領に基づき、観点別評価を自己評価の形で生徒にも教科ごと３段階で実施。 ・学期ごとのＡＢＣの変動等を教科の指導に役立てられるようにしたい。 ・課題解決の自己評価については、1 学期では「確かな学力」について、50%をきっていたが、2 学期では「確かな学力」についても 56%となり、学習への手ごたえを感じる生徒が増加している。3 学期では、さらにポイント数が上昇することが期待される。	
評　　価	B	１，２学期の互見授業 90%に達しなかった。学習アンケート全教科実施、自己評価は６項目中５項目で６０％越えがみられた。
学校関係者の意見	・新教育課程の３観点評価を意識した授業改善が高まり、ＩＣＴを利用したものが増加し、今後も各教科で取り組みたい。 ・学習意欲を維持するため、教員や生徒に対する学習アンケートや自己評価を今後も活用していきたい。	
次年度へ向けての課　　題	・新年度からは全学年で観点別評価に移行していくため、学習アンケート結果を分析し指導に生かす努力が必要となる。 ・ＩＣＴ利用は定着してきたが、今後もわかりやすい授業への授業改革を継続していくことが必要である。これまでの互見授業にさらにお互いを研鑽していくシステム作りが必要となる。 ・観点別自己評価については、今後も継続していきたい。	

<table>
<tr><td colspan="4">令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―2―</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">特別活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">部活動の活性化と競技力の向上</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">・本校は運動部１７、文化部１１の計２８部が設置されており、全員部活動制である。
・運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度は北信越大会や全国大会がほぼ通常通り開催された中、全国大会出場者はのべ１８６名（２３．５%）、北信越大会出場者はのべ４１２名（５２%）で、全国大会は目標にわずかに届かなかったが、北信越大会は目標を大幅に超えることができた。
・部活動個人目標カードを用いて各個人の目標を立てさせた。「達成できた」「まあまあ達成できた」と答えた人は、６９．４%と昨年度とほぼ同じだったが、目標にはわずかに届かなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td colspan="2">①　部活動の個人目標達成度
（個人目標達成者数÷全校生徒数×１００）</td><td>②全国大会・北信越大会出場生徒の割合
（大会出場者人数÷全校生徒数×１００）</td></tr>
<tr><td colspan="2">７０%以上</td><td>全国２０%以上　　北信越３０%以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・３年間使用の部活動個人目標カードを作る。各年度で目標を立て、達成するための方策を考えさせ、結果目標が達成できたかどうかを振り返らせる。そして、次年度に向けて「心身の健康・人間関係能力・責任感・創造性・チャレンジ精神・リーダーシップ・フォロワーシップ」を意識させながら反省等を記入させ、生徒の部活動に取り組む意識を高める。
・成績目標だけでなく生活態度の目標も立てさせ、それらが関連しあっていることを意識させ、達成のための方策を考えさせる。
・各部活動を円滑に運営するために、適宜、部顧問会議やキャプテン会議を開き、諸問題について検討し、改善を図る。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">①４月に立てた目標（競技成績、検定、人間性　等）を達成できたかどうか、１月に調査した。その結果、「達成できた」「まあまあ達成できた」と答えた人の割合は、７１%と目標を達成することができた。</td><td>②全国大会出場者　　１３９名（１９%）
北信越大会出場者　２４１名（３４%）
※実数
全国大会は目標にわずかに届かなかったが、北信越大会は目標を達成することができた。</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="3">①　部活動の個人目標達成度は、昨年度よりも増加傾向だった。感染症に留意しながらも、充実した活動ができたことが理由と考えられる。
②　今年度は、２８部中１６部が全国大会出場を果たした。中でもワープロ部は全国大会団体２位個人３位と素晴らしい成績を残した。他にも経理部が団体５位、陸上競技部が走り幅跳び７位と健闘した。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>B</td><td colspan="2">①　部活動は、生徒が本校入学を決めた大きな理由である。その部活動の取り組みが満足に近いものであったことは喜ばしいことである。
②　各部活動顧問の先生方の献身的な取組みにより、目標を達成できたと考えられる。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="3">・コロナ前の活動に近づいていており、どの部も目標をもって取り組めている。
・部活動の本校の在り方を周りの情勢に合わせて再考する時期である。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課　　題</td><td colspan="3">本校は全員部活動制をとっているが、今後は中学校で地域移行を経験した生徒たちが入学してくる。部活動の教育的意義は言うまでもないが、今後多くの課題に向き合っていかなければならない。こうした過渡期に生徒、保護者、教員が十分にコミュニケーションをとりながら、課題の解決に向けて取り組んでいくことが大事。</td></tr>
</table>

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―3―	
重点項目	学校生活
重点課題	・スマートフォン等の使用に関する生徒の自己管理能力を育てる活動 ・交通事故の減少への意識向上 ・風紀委員会の各班の活動の活性化
現　　状	・目的意識を構築するのに時間がかかり、入学直後、学校になじみにくさを感じる生徒がいる。 ・ほとんどの生徒がスマートフォン等を所持しているが、ＳＮＳの適切な使用に関する意識がまだ低い生徒が見受けられる。 ・県内全域から通学しているため、慣れない通学による自転車による交通事故が起きている。昨年度の交通事故は26件で、重大な事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーについても、地域からご指摘を受けることもある。 ・自転車乗車時のヘルメットの着用が努力義務化されたが、まだ着用してくる生徒は少ない。 ・風紀委員の活動が活発化してきたが、まだ自主的な活動までには至っていない。 ・風紀委員会のスマートフォン等や自転車のマナー向上啓発運動がまだ浸透していない。
達成目標	「スマートフォン等に関する自己管理能力を育てるための取り組み」（年間３つ以上）
	交通事故件数の減少をめざす
	風紀委員会（班活動を含め）年間８回以上実施し、風紀委員の活動を活発にする
方　　策	・生徒のスマートフォン等使用に関する実態把握に努め、風紀委員会で、マナー向上のためのポスターや掲示板作成を実施する。 ・５月のＰＴＡ総会や学年別懇談会を活用し、保護者に対し「ＳＮＳによるトラブル撲滅」への協力を養成する。 ・４月に自転車点検、５月に交通安全指導講話を開催し、規範意識やマナーの向上を図る。 ・７月に全校生徒を対象にスマホ安全教室を開催し利用マナー向上に努める。 ・風紀委員を１年間の委員に変更し、活動の継続性や活性化を図る。 ・風紀委員が警察署や関係機関と合同で、自転車施錠やマナー向上の街頭呼びかけを行う。

達 成 度	・「スマートフォン等の使用に関する生徒の自己管理能力を育てるための取り組み」として、PTA 総会、PTA 役員会等での保護者への協力の呼びかけを行った。また、風紀委員が、スマホ・アプリの使用状況に関するアンケートを各学期１回行い、アンケート結果を分析し教室に掲示した。また、１学期には「イレブン・セブン運動」のポスターの作成と掲示、２学期には各クラスで「イレブン・セブン運動」の説明を行った。７月には全学年でスマホ・ケータイ安全教室を実施した。 ・交通事故件数は２２件となった。（昨年同時期２６件）５月に交通安全講話を実施し、６月には風紀委員が自転車施錠呼びかけやステッカー確認でマナー向上を図った。 ・風紀委員会の全体会は４回、班活動や校外での活動も含めると、活動した回数は１０回程度あった。	
具体的な取組状況	・本年度は昨年度に続き、風紀委員が、自転車係、ポスター係、掲示板係にわかれて活動した。本年度から風紀委員は通年の委員に変更し、生徒が主体的に考え活動することで、全校生徒の規範意識の向上をめざした。 風紀委員会が活発に活動することで生徒全体の規範意識の向上をめざした。 １自転車係：自転車小屋での自転車施錠点検、ステッカー確認を実施した。また、富山西警察署との交差点指導に参加しヘルメット着用を呼びかけた。 ２ポスター係：PC や手書きで「イレブン・セブン運動」に関するポスターを作成し、廊下、階段、生徒玄関に掲示した。 ３掲示板係：風紀委員会からのお知らせを作成し「掲示板」の名前でクラス掲示した。 １学期　　：自転車事故があった場所の地図マップ、スマホ・アプリの使用状況に関するアンケート結果 ２、３学期：スマホ・アプリの使用状況に関するアンケート結果 ・外部講師等を招いて５月交通安全指導講話、７月スマホ・ケータイ安全教室、１２月薬物乱用防止講座などを実施し規範意識の向上をめざした。	
評　　価	B	・風紀委員会の活動は活発に行うことができた。 ・自転車事故件数は減少したが、入院を要する交通事故もあった。 ・スマホ・アプリの使用状況に関するアンケート結果では、正しい使用方法を身につけるには至っていないことが明らかになった。今後、さらなるの取り組みの工夫が必要である。
学校関係者の意見	・風紀委員会をうまく利用して、生徒自身で意識を高められるようにできた。 ・継続して、交通安全やＳＮＳ利用の規範意識を指導して、生徒に自覚を持たせることが重要である。	

次年度へ向けての課題	・昨年度からはじめた風紀委員会活動を、今後もさらに継続発展させていくことが重要である。委員会活動を生徒の規範意識向上にどのように結び付けるかが課題である。 ・スマホ・アプリの適切な利用について、アンケート結果を活用し、各教科やHR、学年集会、学校行事など、様々な機会をとらえて指導をする必要がある。 ・ヘルメット着用をはじめ安全な登下校のための指導をすることで、生徒たちが加害者にも被害者にもならない取り組みが必要である。 ・風紀委員会で、あるべき富商生の姿を掲げ、挨拶、礼儀、制服の着こなし等について理想の形を創り出し、それを全校に広げていく活動を行いたい。

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―4―		
重点項目	進路支援	
重点課題	・社会や職業についての幅広い知識・理解とともに職業観・勤労観を育む。 ・自己理解を深めさせ、一人一人が能力や適性に応じた進路選択ができるよう支援する。 ・自分の考えや思いを的確に表現できる文章記述力を系統立てて指導する。 ・個に応じた組織的・計画的な取り組みを通して、より効果的な進路支援を行う。	
現　　状	・職業観・勤労観の育みが遅い生徒は、自己の進路希望・進路目標の確立が遅れがちである。 ・生徒自身の自己理解が不十分な生徒は、適性や能力に適合しない進路選択をする場合がある。 ・昨今、大学等の募集人員や受験倍率の変化、求人数が増加して就職希望先の選択の幅が広くなっている一方で、生徒自身の自己理解が深まっていない場合に、安易な進路選択が中途退学や早期離職などにつながる可能性がある。	
達成目標	①小論文における記述能力	②第３学年生徒の進路満足度
	小論文模試の評価向上	９７％以上
方　　策	・新聞記事の要約や自分の意見をノートにまとめ、物事を観察する力や分析する力を日頃から鍛えるとともに、思考を言葉にまとめて書き出す力を育成する。 ・国語科と協力して国語の授業を活用し、小論文記述力を学年進行で向上させる方策を実施する。 ・1，2年は年間3回、3年は年1回の小論文模試を実施する。 ・外部講師によるガイダンスを実施し、幅広い知識や考え方を養う。 ・小論文模試では、「説得力」「構成力」等の評価の向上を目指す。	・より早い段階から具体的に自らの進路を考えさせるように計画を立て、実施する。 ・生徒の進路実現により即した進路ガイダンス等の実施に向けて取り組む。 ・進路適性検査等により、自己の能力・適性を考える機会とし、適切な進路選択を行うよう指導する。 ・生徒の進路志望状況をできるだけ具体的に把握するとともに、家庭との連携を図るため、進路選択に必要な適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。 ・進路実現を目指す生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。 ・３年時に大きな進路希望変更がある場合、十分な話し合いと保護者との緊密な連絡を行う。
達 成 度	記述力や分析力だけでなく、小論文の学習を通して自己理解や進路意識向上につながった。	９８．３％
具体的な取組状況	・学期毎に小論文模試を設定。事前学習により生徒全員が小論文の書き方を学習し、事後学習で記述方法の確立を目指した。 ・小論文指導を通して生徒に自己の在り方生き方を見つめさせ、自己理解を深めながら、将来への具体的な展望を持たせた。 ・論理的思考力を身に付けさせ、社会問題へのアプローチや意識づけを図るため、新聞記事を使ったワークシート教材を活用した。時事問題への関心や分析力を高め、自己の意見の明確化を図った。	・ミスマッチの防止やより良い進路実現に向けて、一人ひとりの生徒に応じた進路指導を実施した。 ・進路ガイダンスや生徒保護者への資料提供などについて、その内容や方法の改善を行った。 ・国公立大学や本校難関指定校進学者に大学入学共通テストの学習に取り組ませた。受験後アンケートでは、進学に向けた学習の意識・意欲向上に大いに意義があったとする回答を多く得た。
評　　価	B	教職員が一丸となって面接や小論文など個々の生徒への手厚い指導をおこなった。 生徒の進路満足度は昨年度比１．１％上昇した。
学校関係者の意見	・生徒の進路希望を早くから意識させ、ミスマッチが少ない進路選択につなげたい。 ・小論文に関する材料を多岐にわたってさらに収集する力を養いたい。	

次年度へ向けての課　題	・適切な進路指導による生徒のより良い進路実現と、新しい進路先での更なる自己実現の両方を目指した学校全体による指導体制の構築を図る。 ・生徒進路意識の早期確立と、より効果的な進路指導の充実を図る。

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―5―		
重点項目	学習活動	
重点課題	１　授業の充実　　２　検定・資格取得の向上	
現　状	全商検定　１級３種目以上合格者（第３学年） 令和２年度　５９名（２１％）（３学年７クラス） 令和３年度　１３３名（４８％）（３学年７クラス） 令和４年度　７９名（２９％）（３学年７クラス） 全商検定　簿記２級合格者 令和２年度　１２６名（４５％）（１学年７クラス） 令和３年度　９０名（３８％）（１学年６クラス） 令和４年度　１４６名（６０％）（１学年６クラス）	
達成目標	１　授業の充実	２　検定・資格取得の向上
	生徒の授業満足度 ８０％以上	全商検定１級３種目以上合格１００名以上（約４０％） （現３学年６クラス） 全商簿記２級合格　　１７０名以上（約７０％）
方　策	・授業担当者や学年と連携を密にとり、商業科全体で学習進度の統一や指導に向け連携を図る。 ・基礎・基本の着実な定着を図るため定期的に小テストを実施し、生徒の理解度を高めるための学習指導体制を充実させる。 ・教員間による授業の指導及び研究のための校内研修を行い、教員の指導力向上を図る。 ・探究的な学習を通じ、生徒に将来の目標やその目標を実現させるために必要なことについて深く考え理解させることで、授業や検定取得に対する生徒の学習意欲を喚起する。 ・１月に行われる検定については、補習授業を行い、学力の向上を目指す。	
達成度	○令和４年度 92.0% １学年：89.7% ２学年：88.6% ３学年：96.3% ○令和５年度 95.2% １学年：94.7% ２学年：93.9% ３学年：96.9%	１　全商検定１級３種目以上合格（第三学年） ○令和４年度　７９名 ３種目（39 名）・４種目（15 名）・５種目（20 名）・６種目（1 名） ・７種目（4 名） ○令和５年度　８５名　（R6.2.6 現在） ３種目（34 名）・４種目（27 名）・５種目（10 名）・６種目（11 名） ・７種目（2 名）・８種目（1 名） ２　全商簿記２級合格 令和５年度　１８２名（約８０．２％）
具体的な取組状況	・プロジェクト学習による探究的な学びとデザイン思考を取り入れた学習指導の展開。 ・学年統一実施の課題テストによる、生徒の学習進捗状況の確認と指導。 ・２学期末考査後に検定対策の授業を毎日１時間設け、約２週間継続して実施。 ・検定試験直前期に７限目を設け、約３週間検定合格に向けた指導を実施。 ・検定試験直前の放課後補習を、希望生徒への質問対応を実施。 ・熟練教師が若手の授業を参観し、週末に意見交換会にて指導力の向上に向けて取り組む。 ・生徒の記憶定着システム（モノグサ）による、検定学習に向けた隙間時間の活用や自宅学習での活用を促進。（自宅学習における一人一台貸与のタブレットを活用） ・地域や企業、教育機関等、外部と連携した授業の拡大、充実を促進し、官学産連携による商品開発や金融教育を実施。	
評　価	B	生徒授業満足度は 1･2 年生については、今後実施予定であるが、3 年生では目標を達成し、さらに昨年度を上回った。全商検定１級３種目以上合格についても高い目標には及ばなかったが、令和 6 年２月 6 日の結果であり、目標を達成できるものと予想している。全商簿記検定２級については、達成目標である 80%に到達することができ、生徒に力が付いていることが分かる。また、金融教育では、4 回の金融教育セミナーと弁護士の菊地幸夫先生による講演会を開催し、ファイナンシャル・プランナーや企業とお金のつながり、お金の持つ危険性などについて、生徒たちは学ぶことができた。

学校関係者の意見	・モノグサを利用した学習に一定の効果を見出すことができた。今後さらに有効利用を考えたい。 ・金融教育に力を入れていきたい
次年度へ向けての課　題	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・「創造力を引き出す」デザイン思考を活用した探究的な学びの授業研究。 ・１学年ビジネス基礎・２学年マーケティング、３学年総合実践での３年間を通して探究学習に具体的に取り組み、主体的に考え、学ぼうとする意欲を身に付けさせる取り組み。 ・課題研究の内容とシステムの再構築ならびにＴＯＭＩ　ＳＨＯＰとの関連性の整理。 ・商業の科目を知識として学習するだけではなく、社会の中でどのように活かされているのかを意識させることで、キャリア教育、探究的な学びつなげ、生徒が商業の可能性や面白みを理解し、商業を学ぶことの楽しさを知るための取り組み。 ・商業を学び、活かしていくための基盤となる生徒の基礎的学力を向上させる取り組み。

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―６―

重点項目	学習活動
重点課題	生徒販売実習「模擬株式会社　TOMI SHOP」を通して社会人基礎力を育成する
現　状	社会人基礎力の中でも「考え抜く力」の評価が低く、他の力より伸び幅も狭い。 令和４年度は、最終自己評価でレベル３（通常の状況で効果的に発揮できた）の生徒が、 〇課題発見力　26.5%　〇計画力　21.3%　〇創造力　21.0%
達成目標	「考え抜く力」の能力要素の最終自己評価のレベル3の割合 Ａ　50%以上　Ｂ　40%以上
方　策	①商業科の授業の中でケーススタディを行い、個人またはグループで取り組むことで「考え抜く力」を養う。また、ケーススタディの題材に担当企業を取り入れることで、課題やその課題に対する解決策を具体的に考えられるようにする。 ②どのような店舗にしたいか目標を定め、共有する。 目標を定めておくことで、現実との差を感じ、その差を課題と認識することができる。 ③各営業日の閉店後に、ミーティングを設定する。 活動を振り返ることで課題が見える。また、解決策を考え実行する経験を積むことができる。 ④事後のＴＳＨＲで自分自身と他者を認めるワークを行う。 「TOMI SHOP」の準備や運営で、頑張っていた他者や自分自身を認めることにより、自己評価を高めることができる。

成　度

・社会人基礎力の自己評価を全3回（TOMI SHOP事前（10月）、事後（11月）、最終（12月）実施し、右表は最終自己評価でレベル３を評価した生徒の割合である。

	課題発見力	計画力	創造力
１年	28.1%	21.9%	21.1%
２年	25.1%	23.4%	22.5%
３年	37.5%	32.1%	32.1%
全体	30.2%	25.8%	25.2%

具体的な取組状況	・商業科目の授業の中で行ったケーススタディは、個人で考えた後グループやクラス全体で解決策を考え意見をまとめるよう段階的な指導を行った。題材についても、TOMI SHOPの準備に活かすことができるようにした。 ・協力企業からTSHRの時間に１～３回来校していただき、「ドラッカーの５つの質問」の内容を踏まえて生徒に企業理念や商品知識、接客時の対応方法などを指導していただいた。 ・専門技術者等招聘事業を利用し、地域や企業、教育機関等、外部と連携した授業の拡大と充実を行った。 ・全校生徒に「ドラッカーの５つの質問」を授業で取り上げ、各クラスの目標に対してどのような課題があるのか解決策を創造的に考えさせ、計画的に準備させるようにした。

評　価	C	・回数を追うごとに自己評価は上昇していったが、目標を達成することはできなかった。結果を細かく見てみると、１、２学年にはレベル１（発揮できていない）からレベル２（通常の状態で発揮できている）と評価を上げている生徒が約20%おり、レベル３（通常の状態で効果的に発揮できている）を自信もって付けられるような工夫が必要である。
学校関係者の意見	・コロナ前と同様の開催まで行うことができた。今後、TOMISHOP の在り方をさまざまな視点で改善しより生徒の意識を武メル工夫が必要である。

次年度へ向けての課題	・社会人基礎力の最終評価は、TOMI SHOPを通して身に付けた力を普段の学校生活の中でどれだけ発揮できたかについて振り返りを行った。１学年には最終評価で事後評価から評価を下げた生徒が約18%おり、身に付けた力を発揮できるよう、商業科目だけでなく、他教科やキャリア教育、探究学習に繋げられるよう取り組み方の工夫が必要である。 ・評価の入力はGoogleフォームを用いて実施した。集計分析をするのは便利であるが、生徒には前回の自己評価の結果を見返すことができるような評価シートの配布を行い、自身の行動の見直しができるようツールの準備が必要である。また、自己評価を厳しくつける生徒もいることから、評価方法（レベル１～３）の仕方も検討が必要と感じられる。 ・授業で行うケーススタディだけでなく、TOMI SHOPの協力企業の方との関りも生徒には非常に刺激となり、「考え抜く力」の育成の場として非常に有意義であった。TOMI SHOPの趣旨を理解し協力していただける企業開拓も引き続き行っていきたい。

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―7―		
重点項目	特別活動	
重点課題	読書の楽しさに出会い、本や雑誌を活用して探究する姿勢を学ぶ	
現　　状	・活字離れが著しい生徒に対して、本を手に取ったり、図書館を知ってもらったりする契機として、教科と連携して、授業の中で貸し出しを行っている。読書へのきっかけ作りにはなるが、生徒自身が本を主体的に読む工夫や蔵書の充実が必要である。 ・タブレットを活用した授業へのシフトにより、図書館利用が減少している。資料センターとして、授業その他で活用しやすい図書館を目指していきたい。	
達成目標	①　生徒の読書への興味を喚起する企画の工夫	②　授業で活用しやすい図書館の環境整備
	各学期３回	通年
方　　策	・１学年での図書館利用指導を充実させる。 ・「新刊図書案内」（図書部発行）や「図書館便り」（生徒図書委員発行）内容を工夫し、生徒の図書館へ興味関心を含め、生徒の読書に対する意欲を喚起する。 ・領域やテーマを決めて関連図書を展示したり、話題の図書を随時紹介したりして、生徒に図書館利用を促すような企画展示を積極的に行う。 ・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望を多く取り入れ、利用を促進する。 ・国語科、地歴公民科をはじめ各教科と連携して、読書感想文や小論文、レポート作成の際の図書館の活用方法や新聞の活用の仕方について理解を促し、図書館の日常的な利用を図る。 ・ICT教育に対応した図書館の役割を探り、授業で活用してもらいやすい環境整備に努める。	
達 成 度	①企画展の刷新を行い、図書室内、および図書室入り口にコーナーを設けて１学期、３回以上の展示の入れ替えを行った。	②関連する書籍や資料の提示など、授業で利用しやすいようにした。
具体的な取組状況	・１年生に対して、オリエンテーション期間中に図書の貸し出し、返却の仕方を体験させた。また、読書感想文の書き方指導に合わせ、夏休みの読書に適した本を紹介し、長期休業中も読書に向かいやすい環境を整えた。 ・生徒の学校生活の進行や、情勢や話題、季節など色々な切り口で、図書室内外に企画展示を行った。図書館入口に月毎の展示、入口左側に図書委員による展示、小論文対策コーナーにその年のキーワードに関する展示、その他、ソファーコーナーでは教養を高める本や読書欲を掻き立てる本など設置場所も考慮し、展示を行った。 　また、新聞コーナーでは本校生徒の活躍の紹介とともに、新聞記事の継続的な特集やキーワード解説を用いて掲示物を作成した。 ・生徒図書委員会の活動を通して、図書館行事への関心を促した。 ・企画コーナーの本を手に取る生徒が多く、特に新刊本コーナーの書籍への反応が早く、貸し出しへとつながり、新刊本への関心の高さを示した。展示書籍の動きや図書委員の企画への意見や感想などから生徒の嗜好を知ることができた。 ・教科担当者の協力を得て、探究学習における文献からの確かな情報の手堅さ、書籍を読むことで得られる知識が深い理解へとつながることを体験してもらった。	
評　　価	B	・図書館に親しみやすい雰囲気を作るとともに生徒の興味・関心を把握した。 ・社会や国際状況の把握や要約練習に役立つ各社の社説のコピーを新聞コーナーに設置、小論文学習に役立ててもらった。

学校関係者の意見	・図書委員会をうまく利用して、生徒が使いやすいと図書館運営に取り組まれている。 ・探求学習や課題研究で図書館の利用を促進していきたい。
次年度へ向けての課　題	・図書館が気軽に立ち寄れて、憩いを感じられる魅力的な場所になるよう、情勢や話題を生徒の生活や関心に合わせながら、企画展示を工夫していく。 ・ICT利用促進の流れの中で図書館が果たせる役割を考えながら、良書の選定、蔵書の整備、電子書籍の導入など環境整備を引き続き行っていく必要がある。

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―８―		
重点項目	学校生活	
重点課題	・生徒が日常生活において災害を未然に防止し、自分と他人の生命を守り障害を防止し、安全な生活をおくるとともに、正しい理解と態度を養う。 ・教職員間で生徒理解を十分に図り、不登校、学校不適応、人間関係等の心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリング、専門医への繋ぎなど充実を図る。	
現　状	・独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入は、任意であり掛け金や保護者の同意書も必要であるが加入率は１００％を維持している。生徒や顧問、授業担当者への注意喚起をしているが、事故発生件数自体は減少が見られない。 ・様々な心理的な問題を抱え、不登校や保健室登校となる生徒がおり、教職員は生徒理解のためと教育相談スキルの向上が欠かせない現状である。	
達成目標	①　ＡＥＤや応急処置の講習会を実施	②　半期ごとに研修会の実施
	年２回	年３回（生徒１回、教職員２回）
方　策	・生徒や顧問、担任、授業担当者へ、危険箇所や事故の起こりやすい状況等について注意喚起したい。また、ＡＥＤの校内設置場所を認識させる。生徒自身が危険を予知したり回避したりできるように、応急処置講習会は感染予防対策を講じて実施する。 ・研修会を通じて、生徒理解のスキルアップをめざす。また、不登校、学校不適応、心理的な原因による体調不良等の生徒対応を円滑に行うため、担任や顧問、学年主任、保健厚生部、保護者が連携して問題解決に取り組み、スクールカウンセラーや医師などの専門家の効果的な活用を図りながら、確実な問題の解決にあたる。	
達 成 度	①　１２月応急措置救急講習会（AED講習） ・年１回の実施ができた。	②　６月生徒対象研修会 ７月、３月（予定）教員対象研修会 ・半期ごとに２回実施できた。
具体的な取組状況	・運動部を対象に、「AED と緊急時の応急措置」研修会を実施した。ＡＥＤの操作と緊急時の応急処置について周知させることができた。事例から熱中症等の症状とその対処方法について、正しく理解することができた。 参加生徒からは、AED の正しい使い方をはじめて知った。緊急時には、協力して対応することが重要であることがわかったなど、参加してよかったとの感想が多くあった。 ・本校スクールカウンセラーを講師として、１学年生徒を対象に、「生徒ストレスマネジメント講座」としてストレスとは何か、ストレスマネジメント（ストレスと上手につきあうこと）技法を理解して、ストレスに対する認知の変容を図った。 また、教員を対象として「日々の生徒との関わりの中で 」毎日の生活に困り感がある生徒について、スクールカウンセラーと生徒理解を深めた。 事後の生徒、教職員アンケートでは、継続して研修会を開いてほしいという意見が多くあった。アンケート結果を資料添付する。	
評　価	B	・救急法の分野は、感染症等の状況に応じて常に新しい知識と技術が進んでおり、応急方法も多様化してきているため、その手順について講習会を通して体得することができた。さらに、健康管理を意識させるよう指導啓発していきたい。 ・教職員自身の学びを高めるために研修会を継続していきたい。
学校関係者の意見	・スクールカウンセラーを利用した講習会、研修会をさらに充実させていきたい。 ・心身ともに大尉刹那命を守るための研修会を継続していきたい。	

次年度へ向けての課題	・心臓疾患による突然死を未然に防ぐなど、身近な人に危険があるときは、対応できる態度を育成するため、応急処置については継続して、講習会を行う。また、日々の生活に目を向け、自他ともに心身の健康の大切さについて理解を深める。 ・全教職員向けの研修会を、多様な生徒に対してきめ細やかな対応ができるように、スクールカウンセラー配置事業を活用計画して、実施する。

令和５年度　富山商業高等学校アクションプラン　―9―		
重点項目	その他	
重点課題	ＰＴＡ活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する	
現　　状	・ＰＴＡ総会への出席率は、３学年の進路説明会を同時開催することで５０％を超える水準となっていたが、昨年度は感染拡大防止のため実施されなかった。変更連絡など学校ホームページ等を活用して情報発信を行うことで状況の理解に努めた。今後も積極的に活用したい。 ・本校独自のＰＴＡ事業として行っているＰＴＡ視察研修や食堂利用体験の満足度は９０％を超える水準で、参加者も増加している。また、３年前よりＰＴＡによる生徒への職業紹介講座を実施している。	
達成目標	①　ＰＴＡ定期総会時の説明による学校の教育方針に対する理解度	②　ＰＴＡ視察研修事業・ＰＴＡによる職業紹介講座の満足度
	９０％以上	９０％以上
方　策	・ＰＴＡ定期総会の土曜日実施と１・２年生の授業参観・３年生の進路説明会・学年別懇談会の同日実施を継続し、保護者の日程的な負担を軽減することで、保護者が参加しやすくなる環境を整える。 ・ＰＴＡ定期総会時の学校長・進路指導部長・生徒指導部長による学校全体の概況説明、学年別懇談会での指導方針を説明してもらうことで、本校の教育方針に対する理解度をより深める機会とする。 ・ＰＴＡ視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。また、２年生対象に行うＰＴＡによる職業紹介講座については、生徒の希望に沿う職業人を招聘し、なるべくミスマッチの無い講座選択を実現する。 ・ＰＴＡ事業について多くの会員の参加を得られるように、行事内容を配布物と学校ＨＰでの配信と両方で行う。 ・機会ある毎に情報メール受信の登録を促し、多くの保護者に情報配信できる体制を整える。	
達 成 度	今年度は感染対策をしながら従来の形式での総会を実施したが、出席率は５０％程度であった。（委任状を含め９５％以上の承認である。）	
具体的な取組状況	・コロナ５類移行に伴い、徐々に行事参加率が上昇してきている、事業の連絡や情報配信については、メールやＱＲコードを用いて迅速かつ丁寧を心掛けて実施した。 ・ＰＴＡ総会は感染対策をしながら、通常の開催を行い、半数の出席を得た。 ・ＰＴＡ視察研修は１３名と少人数の参加であったが、富山大学、朝日印刷株式会社を見学した。大変有意義な研修であるため、次年度はさらに多数の参加を促したい。 ・生徒販売実習「TOMI　SHOP」駐車場係に多くの保護者の方々の助力をいただいた。来年度はさらに多くの協力者を得て、生徒の活動を支えたい。 ・ＰＴＡ職業紹介講座は、同様のキャリア教育と重複するため、本年度から行わない。	
評　　価	Ｂ	コロナ５類移行に伴い参加保護者は増加したが、さらなる活性化を図りたい。
学校関係者の意見	・連絡方法にメールやQRコードを利用して、連絡が取りやすい方策を発見することができた。 ・ＰＴＡの参加意識をさらに上昇させる工夫を考えていきたい。	
次年度へ向けての課　　題	・ＰＴＡ主催行事には、教育活動の理解や進路意識への関心に関わる部分が多いため、継続して要望を取り入れ、理解度・満足度を意識した行事の実施に努めたい。 ・コロナ禍を経て久しぶりの行事再開であった。さらなる参加者増に努めたい。	